

# 溝小だより

<https://mizonobe-kahoku.edumap.jp/>

河北町立溝延小学校

学校通信 No.365

2024.1.31

発行：校長 小林 聡

学校教育目標：ふるさとだいすき かしく つよく やさしく  
～つながりの中で わたしたちが創る 楽しい学校～

## いい塩梅に「その子の将来」を手助けする

雪不足の影響を心配した今年のスキー教室でしたが、スキー指導者、お世話係、スキー場関係者、保護者の皆様…支えてくださったたくさんの方々のおかげで、楽しく充実したスキー教室になりました。心より感謝申し上げます。



左の写真は、昇降口からスキー道具を持ってバスに移動するところです。6年生はひと足早く自分の荷物をバスに積み、1年生の手助けをしようと戻ってきました。その様子を見ていると、そのいい塩梅に感心します。スキーウェアを着て動きづらい中、自分で長靴を履こうとしている時は温かく見守り、「どれ、スキー道具を運ぶぞ。」という時もすぐに持ってあげるのではなく、「どれ持つ?」「これ持とうか?」と聞きながら荷物を持ってあげていました。途中、スキーとストックをまとめていたテープが外れてしまった時も、自分で直そうとする1年生に最後までさせてくれました。「上手にできたね。」と褒められた1年生はにっこりです。学校のなでしこ山で行った初めての1年生スキー学習の時も、スキーの着脱や後始末を上手に手助けしてくれました。「自分でやれることは自分でやらせてあげたい。どうしてもできないところだけ、最小限の手助けを。」と考えてのこのようでした。



また、今年から自分で食べるものを選び、自分で注文できる昼食をととても楽しみにしていた3年生が、「お願いします。」「ありがとうございました。」と挨拶を交わして食券を渡したり、食事を受け取ったりする姿、スキー靴を履いて歩きづらい中、お盆に乗った食器を慎重に運ぶ2年生の姿、滑り終わると自分でスキーを脱ぎ、自分で抱えて登る1年生の姿…そんなちょっとした姿にも、子ども達の育ちが見えてうれしくなりました。

『魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ』という格言も、『わすれられないおくりもの』(スーザン・バーレイ作/小川仁央訳 評論社)の年老いたアナグマも、相手のこと、つまり「相手の将来」のことを一番に考えているのだと思います。しかし、わたしたちはつい何でもやってあげたくなったり、それを喜ぶ顔を見るとまたやってあげたくなったりしがちです。今風に言えば、タイプ(タイムパフォーマンス「時間を効果的に使う」の略)の良い大人都合の手助けなのかも知れません。子ども達のかかわりを見て、いい塩梅に「その子の将来」の手助けをしていきたいと改めて考えました。

## 登校してくる かわいい下級生のために



前も見えないくらい猛吹雪の朝、久方ぶりに昇降口は雪で埋まり、小さい子の長靴ほどの高さまで積もっていました。そんな中、登校した6年生が次々とスコップを手に雪掃きをしてくれました。最高学年にとっては当たり前の行為ですが、「ぼくもやろうかな。」「6年生、大変そうだな。」と1年生がつぶやいたり、「ありがとうございます。」と下級生がお礼を言ったりする姿には、溝延小学校に脈々と受け継がれてきた大切なものが今年もちゃんと受け継がれているのだなと感じました。



本校ホームページへ  
こちらからどうぞ